

# 余丁校通信



3月の生活目標

学校や身のまわりをきれいにしよう

## 先の見えない中でも、進む

校長 佐藤 郁子

先月開催された展覧会には、多くの地域・保護者の皆様に来場いただきました。誠にありがとうございました。子どもたちの感覚や想像力、そしてそれを形にする力・創造力の一端を感じていただけたことと思います。自分たちで創り上げる力は大切です。

さて、東日本大震災からもうすぐ 15 年を迎えます。当時私は、他地区の副校長として校庭で下校する 5・6 年生を見送っていました。その日は、委員会活動の日で、5・6 年生のみ残っており、ちょうど下校時刻でした。

突然足元の地面が「ぐらり」と揺れました。周囲の子どもたちも「え!？」という顔でこちらを見えています。「地震だ!校庭の真ん中に!!」と咄嗟に叫びました。校庭の端にあるプールの水が大きく波打ち、高波ようになり、校庭にあふれ出しました。校舎から、次々と教員に引率され、子どもたちが避難してきました。その後、地域の方や帰宅困難者の方も避難してきて、避難所開設の準備に追われました。

そして 6 年前の 2 月末のある日。帰宅してテレビニュースを見ていると、新型コロナウイルス感染症対策本部が開かれており、故安部元総理大臣が突如「全国すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校について、来週 3 月 2 日から春休みまで臨時休業を行うよう申請します。」と切り出したのです。即座に当時勤務していた学校の副校長と連絡を取り、対応を練りました。翌日臨時校長会開催。新型コロナウイルス感染症対策と教育活動の両立を目指すべく試行錯誤が始まりました。予測不可能なことは現実起こる。また予測していても、自分の経験値以上の対応は、非常に厳しいと感じました。

それでも人間には「想像」し、「創造」する力が与えられています。「無理だ」「今までのやり方ではできない」、日々の習慣を崩されると否定的な言葉が並びます。「今までと違う」からこそ、「考え、工夫」します。それが「進歩」になります。うまくいかないこともあるかもしれませんが、そうしたら、もう一度やればよいのです。失敗を糧に。

6 年生の皆さんは、いよいよ卒業の春です。これからも様々なことが待ち受けているでしょうが、どうか困難にあっても歩みを止めずに進んでください。1~5 年生も一学年進級です。3 月のまとめの時期を大切に過ごしてほしいです。

少し早いですが、地域・保護者の皆様、本年度も本校の教育活動に様々なご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げます。

誠にありがとうございました。

## 皆様のご協力に感謝

スクールコーディネーター

スクールコーディネーターは、区立小・中学校に 1 名ずつ配置されていて、学校と地域と家庭が連携して児童・生徒の学習活動を支援できるようにコーディネートすることが目的です。

学校や地域とコミュニケーションを図り、学校の希望や地域の特色に合わせて活動しています。

今年度もたてわりロング、体力測定、読書旬間の読み聞かせ、1 年生秋探し、2 年生町探検など、地域の大勢の皆様が児童との交流の機会を楽しみにお手伝いしてくださいました。心より感謝申し上げます。

これからも教育活動に少しでもお役に立てるように努力してまいります。

## 展覧会を終えて

図画工作担当

展覧会「YOCHOMACHI ア〜トな時間 2025」が終了しました。

2 年に 1 度の展覧会では作品しか展示していませんが、作品が出来上がるまで児童はいろいろなことを想像し、つくったりつくりなおしたりしながら図工室で活動しています。

今回の展覧会で、ご覧くださった方々には、展示された作品を通して、日々の児童の思いや想像した世界に思いを巡らせる機会になれたらと思いました。

日々の図画工作の時間に大切にしていることは、それぞれの児童のイメージを尊重することや、つくりたいものをつくり上げるために児童の活動をサポートすること。また、上手い下手という価値基準ではなく、いろいろな考えや見方があること、それを尊重し合うことです。

つくるだけでなく、見て感じることで、さらにそれがつくるエネルギーへと進んでいき、ぐるぐるめぐりながらいろいろな作品が出来上がっていきます。展覧会を通して図画工作の活動の一端をご覧いただきましたが、今日も図工室では豊かな時間が流れています。